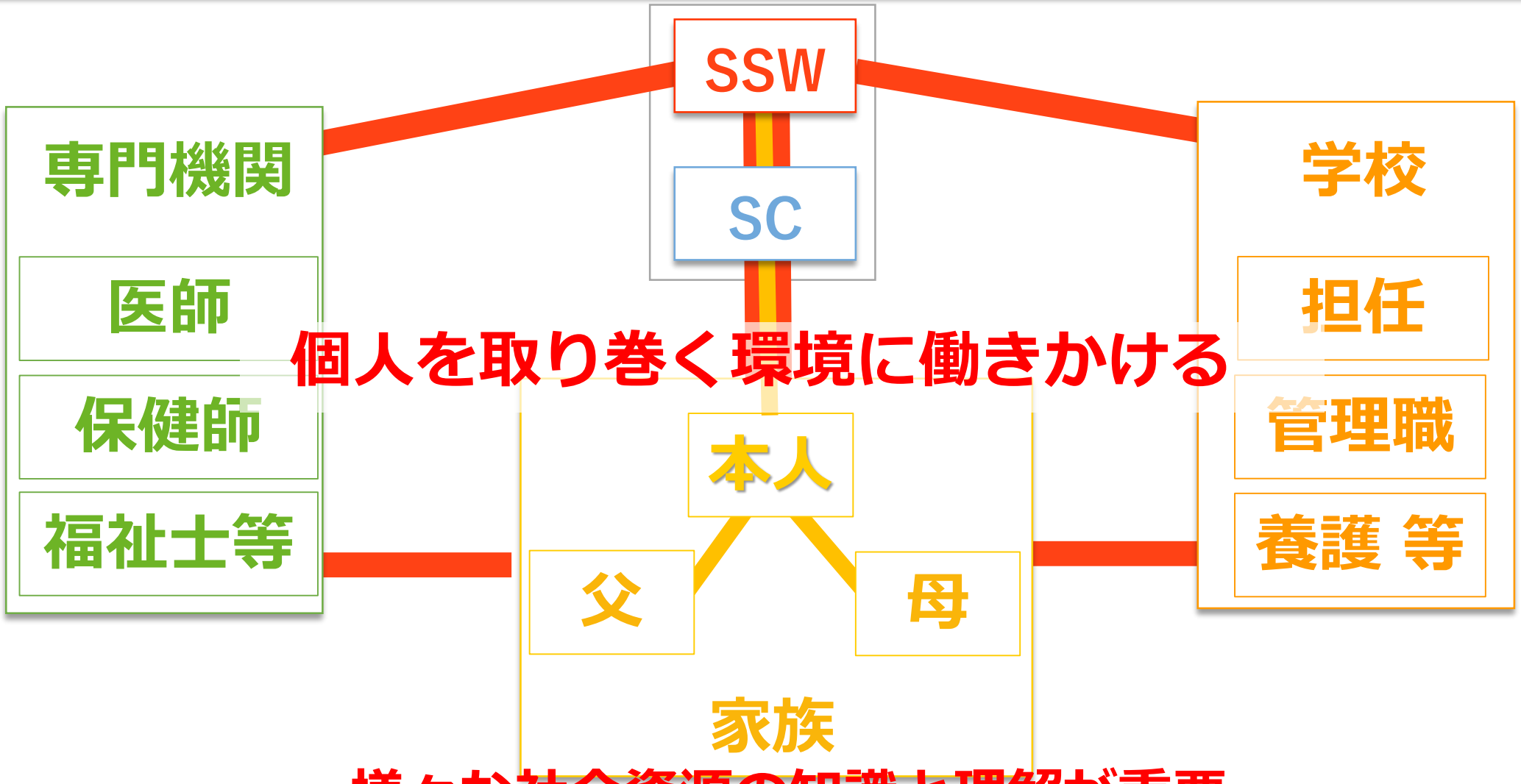
スクールソーシャルワーカー（各論）

ソーシャルワークの基礎

ソーシャルワークの基礎知識



個人を取り巻く環境に働きかける

様々な社会資源の知識と理解が重要

「役割」「対象」「できること」「特徴」

ソーシャルワークの基礎知識

フォーマルな社会資源

- 専門機関
  - 病院
  - 児童相談所
  - 保健所
  - 精神保健福祉センター
  - 特別支援
- 学校
  - 担任
  - 管理職
  - 養護 等

本人

インフォーマルな社会資源

- 家族
  - 母
  - 父
  - 祖母
  - 祖父
  - 親戚
- 友人
  - 教室
  - 部活
  - 塾
  - Net

様々な社会資源の知識と理解が重要

依存症での関わり方のポイント－社会資源の活用

社会資源の活用のあり方

フォーマル
社会資源の活用方法

- 各機関「役割」「対象」「できること」「特徴」を理解する。
- 各機関スタッフの立場・役割（関係性）を知る
- 「誰が・何を・どのように」伝えるか
- 「お願いしたいこと」（需要）と「できること」（供給）の「ずれ」を理解する。

インフォーマル
社会資源の活用方法

・キーパーソンを見極める

・支援へのモチベーションを見立てる

・「誰」と手をつないでいくかを見極める

・情報を収集・見立て、そしてこちらの「できること」を明示する。
・依頼先に具体的に何を依頼するかを伝える

▼

依頼先に丸投げはしない

専門医療機関との連携

専門機関の連携－専門機関は何をしてくれるか？

①さいたま市心の健康センター（さいたま市民）
精神保健福祉センター（さいたま市民以外の県民）　・　保健所

役割	対象	できること	特徴
地域へ「つなぐ」ことを 医療機関へつなぐこと	本人・家族 教員・SC・SSW（関係者）	・本人・家族の相談 ・問題のアセスメント ・地域への橋渡し	短期的な関わり 料金：無料

②医療機関

本人の治療 診断・診察 投薬・検査等	本人	・疾患の診断・投薬 ・検査（精神・発達障害） ・入院治療	医療的な関わり 料金：保険診療

③民間の相談室

相談・カウンセリング	本人・家族	・本人・家族の相談 ・問題のアセスメント ・カウンセリング	長期的な関わり 料金：自費

専門機関の連携－専門機関への連絡のコツ

①精神保健福祉センター、保健所の場合

・生徒、または家族の「誰がどのように困っているか」「何を依頼したいのか」を明確にする。

※「不登校」を主訴にしない　→　「家族関係について困っている」という点を主訴にする

・依頼先に何を依頼したいかを明確にする。

・キーパーソンは誰か（誰が相談にいくか）を明確にする。

→これまで学校での問題・課題の経過伝え見立ててもらう。

②医療機関の場合

本人が受診できないと、断れてしまうことが多いことを理解する。

本人が受診できないときは、まず家族の相談として①・③につなぐことを検討する。

③民間相談室

相談室によって形態が異なるので、方法や内容を調べてから連絡する。

訪問にあたっての

ア セ ス メ ン ト

導入時各段階のアセスメントーポイント

○導入時のポイント

・誰が最初の相談者か、相談者のニーズをみる
・緊急性のアセスメント（虐待、医療）

○初回面接時のポイント

・何に困っているか（導入時と相談者の語りのズレ）
・家族機能できれば家族構成員の精神疾患の有無
・教員から聴取し、教員・SCと足並みをそろえる
・緊急性のアセスメント
・生活状況
・教員からみる本人像（家からみる視点のズレ）
・緊急性のアセスメント（虐待、病理等）

○訪問時にアセスメント

・家庭での本人－語られる本人と実際のズレ
・言葉にはならない本人の生活状況
・本人と接する親（親との関係性）

事前の情報収集

▼

事前の情報とズレを確認

▼

周囲の語りと実際の生活状況のズレを確認する

関係性のアセスメント

困り

関係者の思惑のアセスメント－困り具合の図

養護

- 健診のときに母と話したことがある
- 母も心配性であったが、困っていた
- 担任は、すこし自分で抱えすぎ、もう少し、周りに相談をしてくれたら

担任

- 不登校の原因は、保護者が甘やかし過ぎている
- 本人をなんとか説得したいが、コンタクトがとれないもどかしさがある
- 転学の可能性も視野に入れる
- 不登校の生徒にかける負担がある
- なかなか本人が登場してくれない

管理職

- 担任抱えすぎていることの心配
- ベテランの担任だから、プライドがあってそれを壊したくない
- SCがなかなか来てくれない
- 学校でなんとかしなければならない

級友

- いい人だけど、よくわからない
- はじめは話したけれど、最近は話さない
- 最近は学校きていない、メンタル弱そう

本人

- ゲームで同じ境遇の人がいる安心
- ゲームで「課金」勢がずるい
- ゲームで周りに迷惑をかけられない
- 配信とかして、ゲームで稼げそう

Net友達

- 先生は、いい人だけれどあまり相談したことがない
- 友達のグループに入れなかった
- みんな勉強をしている
- 点数が低いと見下される感じがする

母

- 成績が下がると父が不機嫌になる
- 母はいろいろ口をだしてくる
- ゲームをやめろとうるさい
- 家にも家庭にも居場所がない
- 母だって父に何もいえない

父

- 学歴がないと社会にでたときに苦労するので、勉強の必要性がある
- 自分も学歴で失敗して望んだ仕事につけず、苦労してきた
- 妻が甘やかしすぎてる

- 暴言が増えてきて悪化するのでは
- 夫が勉強に固執している
- 夫からは自分の対応が原因と思われる
- 自分も育て方が悪かったと思う
- 本人が何を考えているかわからない
- 進学・受験ができなくなる
- 夫が勉強にこだわり過ぎるのが問題と考えている。

- 次の大会に出るために練習が必要
- 家庭の事情で、ゲームの練習に出れる日と出れない日があるのが困る
- Teamからはずそうか迷っている
- プレイがうまいから必要でもある

保護者・本人

面　接　時　の　対　応　方　法

面接時対応のポイント－保護者の対応

責めない

〇問題を引き受けて罪悪感を抱えていることが多い。ここを責めることで、自分を責めたり、周りを責めて、悪循環につながってしまう。

変えない

〇保護者の価値観に対して、違和感があっても、説得するのではなく、まずは「尊重する」ことからはじめ、率直な自分の思いを語ってもらうことを促す。

固執しない

〇保護者にも否認が生じて、何が「問題」「原因」となり、問題が固執しやすい。語られる内容から、様々な「課題」をみて広げていくことを重視する。

「治す」のではなく
「対話」を促し「つなぐ」ことを目標とする

面接時対応のポイントー本人の対応

責めない

〇周りから「責められる」事を続けて「自分らしさ」が保てずに、自己否定感が強くなっている場合が多い。責めてしまうと、抵抗感が増して孤立につながってしまう。

変えない

〇本人の価値観に対して、「親の気持ち」に流されたり、違和感を感じることがある。説得するのではなく、まずは「尊重する」ことからはじめ、率直な自分の思いを語ってもらうことを促す。

固執しない

〇否認が生じると「問題」や「原因」（犯人捜し）に固執しやすい。語られる内容・言動振る舞いから、様々な「課題」をみて広げていくことを重視する。

「治す」のではなく
「対話」を促し「つなぐ」ことを目標とする

グループ面接の方法
対応のポイント

合同面接時のポイント－対話の練習の場として

枠組をつくる

〇司会者をたてる（SC・担任）

〇批評、批判しない－安心安全の場を作る（ルールの確認）

〇順番の配慮－最初に話すひと・最後に話すひとを意識する。

「自分」を語る

〇「あなた」ではなく、「自分」を主語にして想い・感じていること、自分の「物語」を話す。

〇それぞれの話す時間を確保して、「自分」の語りを尊重しながら聞く

互いの理解を深める

〇可能であれば、3周くらい順に話す機会・時間を確保する。

〇専門家としてのアセスメントを伝えて、理解を深める

解決するのではなく
理解を深めることを目標とする